

小・中・高生による協働学習と情報活用の実践研究

大阪府私立羽衣学園高等学校 英語科・情報科 米田 謙三
kenzoo@cd5.so-net.ne.jp

キーワード：小・中・高校、異年齢交流、産学連携、TV会議、英語、総合的学習、コミュニケーション能力

1. はじめに

小・中・高が協働で連携（学習）することがまさに必要とされる時代が今まで以上にやってきました。そこで、「ユネスコ・世界寺子屋運動」をテーマに、異年齢の交流を通してまた海外の生徒とのやり取りを通してそれぞれの世代の考え方や違いを実感し、「国際理解・平和教育・福祉教育」は勿論 情報活用の実践力を深める目的で、本事業を実施したものである。

2. プロジェクトの概要

世界寺子屋運動をテーマに、全国の小・中・高校計19校が参加する。下記の通り3つのステージで実施する。内容としては、小中高校 合同ワークショップ（掲示板やTV会議による交流）外部とのワークショップ（外部講師や産業界の協力によるWS）を中心にすすめる。前者は、①「ユネスコ」に対するイメージ理解 ②リーフレットのポイント学習 ③調査研究活動 ④海外交流校・国内学校との意見交換 ⑤TV会議による意見交換会を中心とし、後者は、①「ユネスコ」講演会参加 ②世界6カ国のユネスコ委員来校 ③個人研究からグループ研究へ（発表・共有・振かえり） ④リーフレット専門家による指導を中心にする。

2. 1 第一ステージ

時期は、1学期から夏休みの期間でまずはユネスコ世界寺子屋運動についてユネスコ協会連盟の教材を活用して学習をすすめる。リーフレットづくりの事前学習として、D-project WEBサイトを参考にして学習をする。途中、TV会議や掲示板を利用し、参加校同士の交流を始める。（情報の発信）

2. 2 第二ステージ

時期は、2学期から冬休みの期間で ユネスコ世界寺子屋運動の学習を深めるためにゲストティーチャーに来校してもらう。また複数の学校にゲストティーチャーの講演をライブ発信も実施する。また、リーフレットづくりの実施をユネスコ協会よりいただいた素材画像をもとに作成し始める。途中専門家に助言・指導をいただいたり、自分達で意見交換しながら完成へとすすめていく。そのときTV会議や掲示板の具体的な活用を始める。（情報の共有から活用）また定期的に、学園祭やイベントがあるのでそこで現在の活動を発表する。また実際に 海外のユネスコ委員の方々に来校していただき実際に意見交換も実施する。

2. 3 第三ステージ

時期は、3学期の期間で リーフレットづくりの完成・振り返りを各学校で発表・意見交換（情報の分析）し代表作品を決定する。またリーフレットの発表をし全体の中で最高作品を選ぶ。またボランティア活動の計画を実施する。（書きそんじハガキを集めたりする）また高校生は、海外研修に行き 海外の生徒と交流を図る。（今年は タイ バンコク）

3. プロジェクトの特徴

一番の特徴は小・中・高の異年齢交流である。それぞれの世代の考え方や違いを一つのプロジェクトを通して実感することができる。同じ学校以外の先生やゲストティーチャーに触れることにより（特に ユネスコの現地訪問者のレクチャー）今までとは違う本物の迫力を感じながら 具体的に学びボランティア精神や平和について考えたり、自分自身の今後の生活を見直すきっかけになった。また リーフレットづくりでは情報活用の実践力を TV会議などではコミュニケーション能力の向上（海外との交流では英語）も見られた。またリーフレットに関しては、小学生の作品が最優秀作品に選ばれ、実際全国のある書店から約20万部配布された。